

令和5年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との  
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会では、令和3年10月に第4期「香川県教育基本計画」を策定し、「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり」の基本理念のもと、学校をはじめ家庭や地域と連携・協力しながら、香川で育ったことを人生のゆるぎない礎として、自分の良さや可能性を見出し、夢と志を持って、生涯にわたって学び続けることができるよう、様々な教育施策を積極的に展開しているところです。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組みは22年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題に対応するため、多方面で連携・協力を進めているところです。

令和5年度の事業を振り返りますと、香川大学の先生方には、県教育委員会事務局各課主催の現職教員研修や各種事業等における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただいたり、学力向上モデル校事業や道徳教育地域支援委託事業において、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたりと、様々な場面でご支援、ご協力をいただきました。

さらに、連携事業である、公立学校での教育実習や、公立学校インターンシップの実施を通して、未来の教員の育成を図るとともに、教職大学院連携研修講座を実施し、現役の教員の資質・能力の向上にも寄与していただきました。また、公立学校等の教育活動支援や、香川県学力等調査結果の分析においても、連携をお願いし、専門的な立場から貴重なご指導・ご助言をいただきました。

坂出高校「教育創造コース」においては、無事5期生を送り出すことができました。教育学部の教授等による出前講座やグループ研究活動の指導をはじめ、附属坂出小・中学校、幼稚園、特別支援学校における実習の受け入れなど、坂出高校教育創造コースの教育活動にご理解をいただき、多大なるご支援を賜りました。本コースで学んだ生徒たちが、教職への夢を一層膨らませ、理想の教師像を形づくり、未来の香川の教育を担う人材へと育っていくことを期待しているところです。

香川県教育委員会では、平成30年度に「香川県教員等人材育成方針」を策定し、目指すべき香川の教員像として「教育に対する情熱をもち、素養と資質を備えた教員」「専門的な知識や技能・指導力を有し、社会変化や教育課題に適切に対応できる教員」「連携・協働しながら学校運営に積極的に参画する教員」を挙げています。今後とも、教員等が教職経験に応じた知識・技能を習得し、実践的指導力を高められるよう、香川大学教育学部との連携協力を一層密にしながら、学び続ける教員の育成に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

令和6年3月

香川県教育委員会教育長

淀谷 圭三郎

## 大学改革の動向と今後の教員養成

昨今、国立大学と立地地域を同じくする教育委員会との連携の重要性が叫ばれています。香川大学教育学部と香川県教育委員会は、全国的にも早く、2002年に「連携協力に関する覚書」を締結しました。以来22年の長きに渡って、様々な分野において活発な連携協力を構築してきました。その間、国立大学は法人化（2004年）、6年間毎の中期目標・中期計画の設定と実行、ミッションの再定義、2040年に向けた高等教育のグランドデザイン策定と常に改革を求められてきました。

この間、香川大学教育学部では、人間発達環境課程の募集停止による学校教育教員養成課程への一本化（2018年）、教育学研究科では教職大学院への特化（2020年）が行われました。さらに2016年の「国立教員養成系大学・学部、大学院，附属学校の改革に関する有識者会議」の最終報告を受け、教員養成の内部改革と教員研修機能の強化、附属学校園の改革が迫られました。また、2021年には、文部科学省より「令和の日本型学校教育」なる理念が提示され、それを担う教師の在り方特別部会が組織されて教員研修や教職大学院のあり方が議論されてきました。こうした一連の改革は、地元の教育委員会との連携なしに推進することはできません。今後も一層の連携強化が求められるところです。

2022年12月に中央教育審議会がまとめた答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」は、養成、免許の授与、採用、研修と教員に係る多方面にわたる改革を求めています。これに合わせて、香川大学と香川県教育委員会は、香川県の教員育成方針（育成指標）を共同で策定し、その内容を教員養成カリキュラムに反映させる努力を積み重ねてきました。教育学部の入試改革では、2024年度推薦入試から香川県教員希望枠を導入しました。同時に、2023年実施の教員採用試験から、本学を含んで大学推薦枠が導入されることとなりました。また、教員研修に関しては、本学の教職大学院と香川県教育センターと間で連携協定を結び、教員研修への貢献に一層力を入れることにしています。具体的には、学校長との対話の中で新たに構築したシステムを利用して研修計画を策定するという新しい制度づくりを協力して進めています。

少子化による18歳人口の急減、教職を目指す学生の減少、教職員の定年延長など、地域社会や教育現場を巡るさまざまな課題が交錯する中で、先の見通せない局面が続くと思われます。そのような状況下、何よりも地元香川県の教育界を中心に広く地域社会に貢献できる教育学部、地域社会から必要とされる教育学部を目指していきたいと思っております。

令和6年3月

香川大学教育学部

平 篤志

# 目 次

## はじめに

大学改革の動向と今後の教員養成

香川大学教育学部長 平 篤 志

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 淀 谷 圭三郎

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

### 【概要編】

令和5年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力

に関する取り組み一覧 …………… 1

### 【資料編】

[資料1] 令和5年度公立学校インターンシップ実施要領…………… 9

[資料2] 公立学校教員等の活用…………… 11

[資料3] 香川大学教育学部の専任教員として…………… 14

[資料4-1] 令和5年度香川県教育委員会免許法認定講習…………… 18  
(高等学校教諭)

[資料4-2] 令和5年度香川県教育委員会免許法認定通信教育…………… 19  
(特別支援学校教諭)

[資料5] 免許法認定公開講座 …………… 20

[資料6-1] 令和5年度管理職候補者研修会…………… 21

[資料6-2] 教員研修連携プログラム…………… 22

[資料7-1] 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業…………… 24

[資料 7-2]	教科等の指導における ICT 利活用モデル校事業	25
[資料 7-3]	幼児教育支援員派遣事業	26
[資料 8]	香川県学力等調査結果分析検討会議	28
[資料 9]	第 23 回「未来からの留学生」を終えて	29
[資料 10]	令和 5 年度特別支援教育コーディネーター協議会	30
[資料 11]	坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援	31
[資料 12]	SDGs 教育プロジェクト	42

#### 【覚書・要項】

	香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	43
	香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	44

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力  
に関する取り組み

概 要 編

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

### I 協議会関係

項 目	令和5年度実績	令和6年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携協議会 (R6.2.8)</li> <li>○ 幹事会 (R6.1.22)</li> <li>○ 専門委員会 開催なし</li> </ul>	連携協議会開催 (R7.2 予定)  ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	○ 令和4年度実績報告書作成	・令和5年度実績報告書作成	

## II 連携関係

### 1 教員養成に関するもの

項 目	令和 5 年度実績	令和 6 年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附高小 公立小 0 校（実習）</li> <li>・附坂小 公立小 0 校（実習）</li> <li>・附高中 公立中 0 校（実習）</li> <li>・附坂中 公立中 0 校（実習）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員採用内定者が公立学校で研修</li> <li>・ 対象者：38 名</li> <li>・ 実施期間 令和 6 年 1 月～3 月（5 日程度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 1
③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高度教職実践専攻における実習連携協力校 11 校の連携協力校（県立特別支援学校 1 校、中学校 5 校、小学校 5 校）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul> 41 校園の連携協力校（県立特別支援学校 2 校、高等学校 3 校、中学校 13 校、小学校 21 校、幼稚園 2 園） ※新たに 3 校（小学校 3 校）追加予定。	
④公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） （高校教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育実践集中講座の実施</li> <li>※教育関係職員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義</li> <li>・退職校長（日下哲也） 主任指導主事（出濱大資、山下 司）</li> <li>・年間 2 期、1 人 20～25 時間程度の講義</li> <li>○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 2
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現職教員等 3 名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 谷口弓恵、倉野晴代、川東芳文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 3
⑤大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員が公立学校現場で研修</li> <li>※R 5 年度についても実施せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	

## 2 教員研修に関するもの

項 目	令和5年度実績	令和6年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.8名、H20.7名、H21.8名、H22.7名、H23.6名、 H24.5名、H25.5名、H26.5名、H27.5名、 H28.11名、H29.10名、H30.10名、R1.10名、R2.6名、 R3.4名、R4.8名、R5.10名) ・教職大学院学校力開発コース 4名 ・教職大学院授業力開発コース 3名 ・教職大学院特別支援開発コース 3名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施 (令和6年度は8名の予定) ※9名の内訳(義務教育課7名、県立(特支)1名)	
②教員免許状取得のための研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習・通信教育(8月～9月)への大学教員の派遣等	・継続実施	資料4
③(免許法認定公開講座) [担当：教育学部]	○小学校の現職教員が中学校教諭免許状(英語を取得するための免許法認定講習を実施(7講座、7単位)	・未定	資料5
④指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○対象受講者がなかったため、未実施。	・未定	
⑤教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 初任者研修・職務研修の講師・助言者として大学教員を派遣 ○令和5年度「小中教育指導研修会」の研修企画の指導・助言 ○教職大学院連携研修講座として6講座を実施。 ・資質・能力を育む教科の授業づくり 27名 ・道徳科の授業づくり 27名 ・教育効果を高めるためのICT活用法 30名 ・授業における特別支援教育 32名 ・学校の危機管理研究I-① 1名 ・学校の危機管理研究I-② 2名	・継続実施  ・研修講師を派遣  ・継続実施	

<p>⑥特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<p>○内地留学の実施 (H25 2名、H26 2名、H27 2名、 H28 2名、H29 2名、H30 2名、 R1 2名、R2 1名、R3 1名、R4 1名 R5 1名))</p>	<p>・継続実施</p>	
<p>⑦教員研修連携科目の実施 (管理職候補者研修会) (義務教育課) 〔担当：県教委〕  〔担当：教育学部〕</p>	<p>○管理職候補者研修会年8回のうちの2回を香川 大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究 I」として実施(大学教員が担当)</p> <p>○学校の危機管理研究I(集中・1単位) 8月2日 86名(うち院生10名) 8月3日 82名(うち院生10名)</p> <p>○学校の危機管理研究II(集中・1単位) 9月9日 22名(うち院生9名) 9月16日 20名(うち院生9名)</p>	<p>・継続実施</p>	<p>資料6</p>
<p>⑧教職大学院科目等履修 制度 (義務教育課) 〔担当：教育学部〕</p>	<p>○教員研修連携科目を履修する場合、事前に「教 職大学院科目等履修生」として申請・登録して 履修することにより、「教職大学院科目等履修 単位」として認定する。</p> <p>※上記⑦の受講者のうち、科目等履修生として 受講した者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の危機管理研究I(集中・1単位) 8月2日、3日とも 13名</li> <li>・学校の危機管理研究II(集中・1単位) 9月9日 13名 9月16日 11名</li> </ul> <p>○「教職大学院科目等履修単位」を取得した者 が教職大学院へ入学した場合は、当該科目を取 得済として認定する。</p>	<p>・継続実施</p> <p>※引き続き、管理職 候補者及び「小 中教育指導研 修」受講者へ積 極的に働きかけ る</p>	

### 3 調査・研究に関するもの

項 目	令和5年度実績	令和6年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業 ・ 教科等の指導における ICT 利活用モデル校事業 ・ 外国語教育推進モデル校事業 ・ 課題解決型学習実践モデル校事業 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進	・ 継続実施 (事業内容については検討中)	資料7
②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当：県教委]	○ 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習 状況調査」の結果分析に対する指導助言	・ 継続実施	資料8

#### 4 事業に関するもの

項 目	令和5年度実績	令和6年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) [担当：県教委]	○ 大学教員を講師として派遣 ・ 高松桜井高           ・ 高松商業高 ・ 高松西高	・ 継続実施	
②高大連携 (高校教育課) [担当：県教委]	○ 高校生が香川大学の公開授業や体験授業に参加 公開授業：1学期32名、2学期11名 体験授業(夏休み)：113名	・ 継続実施	
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) [担当：県教委]	○ 学生ボランティア派遣事業(登録者57名) ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター(適応指導教室)に57名を派遣(R5.12.1現在)	・ 継続実施	
	○ 「放課後子供教室」支援ボランティア等の募集	・ 継続実施	
⑤未来からの留学生 [担当：教育学部]	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催(県教育委員会後援) 約700名が参加	・ 継続実施	資料9
⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・ 継続実施	
⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) [担当：県教委]	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・ 継続実施	
⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) [担当：県教委]	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開した。	・ 継続実施	

<p>⑨特別支援教育総合推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家チーム</li> <li>・ 巡回相談</li> <li>・ 特別支援教育コーディネーター協議会</li> <li>・ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会</li> </ul> <p>(特別支援教育課) [担当：県教委]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体制整備の推進に関する指導・助言</li> <li>○ 学校を訪問し、発達障害を含む障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校の支援体制について指導助言</li> <li>○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義</li> <li>○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul> <p>(一部内容を見直し予定)</p>	<p>資料 10</p>
<p>⑩全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事業</p> <p>(特別支援教育課) [担当：県教委]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育に関する、教員に必要な資質能力の指標作成や教員のキャリアに応じた研修内容等についての協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	
<p>⑪令和5年度 独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業</p> <p>[担当：教育学部]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院との共催において実施。令和5年度は5つのラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に各教員の資質・能力向上につなげる内容を教育関係機関や多くの先生方との連携・協働で提供してきた。道徳(3回)保健室(2回)学級づくり(2回)授業づくり&amp;ICT(2回)個別最適な学び(1回)県教員センター指導主事等の協力を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も多様な形で継続実施を検討。</li> </ul> <p>研修デザイン支援シート集を作成予定。</p>	
<p>⑫坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業</p> <p>(高校教育課) [担当：県教委]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員による指導等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の実施(9回)</li> <li>・ グループ研究指導(3回)及び研究室訪問受け入れ</li> <li>・ 大学訪問の受け入れ(1回)</li> </ul> </li> <li>○ 附属学校における活動(計11回) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 附属坂出小学校(6回)</li> <li>・ 附属坂出中学校(4回)</li> <li>・ 附属坂出幼稚園(3回)</li> <li>・ 附属特別支援学校(1回)</li> </ul> </li> <li>○ 教育創造コースの教育内容に関する検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料 11</p>
<p>⑬教員研修の高度化推進事業(2.教員研修の高度化モデル開発事業)</p> <p>(県教育センター) [担当：教育学部]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 香川大学が文部科学省令和4年度第2次補正予算「教員研修の高度化推進事業(2.教員研修の高度化モデル開発事業)」を受託。開発テーマ「香川型研修奨励システムの構築ー教員と校長の1on1対話支援ツール」を共同開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システムの運用を検討</li> </ul>	

## 5 その他

項 目	令和5年度実績	令和6年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 令和5年度新規派遣 ※ ( ) は合計数 ・ 附属高松小 4 (25) ・ 附属高松中 3 (19) ・ 附属坂出小 3 (18) ・ 附属坂出中 3 (19) ・ 附属特別支援学校 2 (13) ・ 附属幼稚園 2 (5) 計 17 名 (101 名)	・ 継続実施	

## 参 照

### 6. 香川大学の取組

項 目	令和5年度実績	令和6年度計画等	資 料
①SDGs 教育プロジェクト 〔担当：教育学部〕	○ イベントの実施等 (主なもの) ・ KSDGs おもしろワクワクサイエンス展 (8月5日) ・ ブルネイ国の子どもたちと食文化を考えよう! (8月5日) ・ 「SDGs Weeks for G7」 (7月3-14日) ・ シンポジウム「脱炭素イノベーション」開催 (7月13日) ・ 「SDGsを学問する」講演会 (11月16日)  ・ 全学共通科目「SDGs 学入門」企画と運営 ・ 創発科学研究科共通科目「フィールドスタディ」企画と運営	・ 継続実施	資料 12

資 料 編

## 令和5年度 公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

## 1. 目的

令和6年3月卒業見込で香川県における教員採用が内定している教育学部の学生が、4月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

## 2. 対象者

令和6年3月卒業見込で香川県における教員採用が内定している教育学部の学生

## 3. 参加人数

公立小学校	27名	公立中学校	11名
公立高等学校	0名	公立特別支援学校	0名

## 4. 実施時期・期間

令和6年1月下旬～令和6年3月初旬の間で1週間（5日程度）

## 5. 研修学生（大学院生）、研修校及び研修予定期間

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	東かがわ市立白鳥中学校	2/26-3/1	1名
教育学部4年	善通寺市立東部小学校	2/26-3/1	1名
教育学部4年	多度津町立豊原小学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	観音寺市立大野原小学校	2/13-2/19	1名
教育学部4年	高松市立十河小学校	2/5-2/9	1名
教育学部4年	高松市立中央小学校	2/19-2/26	1名
教育学部4年	高松市立高松第一小学校	2/13-2/19	1名
教育学部4年	高松市立川添小学校	2/20-2/27	1名
教育学部4年	観音寺市立観音寺小学校	2/13-2/19	1名
教育学部4年	丸亀市立城坤小学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	善通寺市立東中学校	3/4-3/8	1名
教育学部4年	善通寺市立中央小学校	2/19-2/26	1名
教育学部4年	三木町立田中小学校	2/13-2/19	1名
教育学部4年	多度津町立多度津中学校	2/13-2/19	1名
教育学部4年	三豊市立詫間小学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	高松市立一宮小学校	2/19-2/26	1名
教育学部4年	高松市立国分寺南部小学校	2/5-2/9	1名
教育学部4年	三豊市立松崎小学校	2/13-2/19	1名
教育学部4年	高松市立花園小学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	高松市立弦打小学校	2/19-2/26	1名
教育学部4年	高松市立亀阜小学校	2/20-2/27	2名
教育学部4年	高松市立栗林小学校	2/26-3/1	1名

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	観音寺市立柞田小学校	2/13-2/19	1名
教育学部4年	高松市立塩江小学校	2/13-2/19	1名
教育学部4年	高松市立新番丁小学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	観音寺市立豊浜小学校	2/19-2/26	1名
教育学部4年	高松市立香川第一中学校	2/5-2/9	2名
教育学部4年	丸亀市立綾歌中学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	綾川町立綾川中学校	2/5-2/9	1名
教育学部4年	小豆島町立小豆島中学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	観音寺市立一ノ谷小学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	高松市立古高松中学校	2/5-2/9	1名
教育学部4年	坂出市立東部中学校	2/5-2/9	1名
教育学部4年	丸亀市立南中学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	綾川町立陶小学校	1/29-2/2	1名
教育学部4年	丸亀市立垂水小学校	2/5-2/9	1名

## 6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加  
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

## 7. 事前・事後指導

### (1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
  - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4判1枚程度），教職支援課を通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

### (2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ，教職支援課を通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4判1枚程度）

## 8. その他

研修の内容・方法等の詳細については，香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

## 令和5年度 第1期教育実践集中講座

## 魅力のある職業 先生になろう。

～夢と笑顔を大切にする教師をめざして～

- 【趣 旨】 ・ 教員になるための準備講座である。  
 ・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

- 【担 当】 客員教授 出濱 大資（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）  
 客員教授 山下 司（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）  
 客員教授 日下 哲也（公益財団法人 日本教育公務員弘済会香川支部 専任幹事）

## 【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
5月11日(木) (16:20~17:50)	415 講義室	<講義・演習> (山下・日下) 【教育実習事前指導】 「私の出会った教育実習生・教育実習に向けて のメッセージ」	「教育実践演習（教 育実習事前指導）」の 講義として行う。 (山岸)
5月15日(月) (13:00~14:30)	422 講義室	<講義・演習> (日下) 【生徒指導】 「生徒指導の実際について」	「生徒指導論（共）」 の講義として行う。 (柘澤)
5月20日(土) (13:00~17:00)	621 講義室	<講義・演習> (出濱・山下) 【教育法規】 「教育法規とケース・スタディ①（出濱）」 「教育法規とケース・スタディ②（山下）」	「教職研究Ⅰ（教育 法規入門）」の集中講 義として行う。 (倉野・谷口・川東)
5月24日(水) (13:00~15:00)	611 講義室	<講義・演習> (出濱) 【子ども理解】 「『子ども理解』と授業実践・附属学校参観の 心がまえ」	「教育実践プレ演 習」の講義として行 う。 (松下)
5月29日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (日下) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論（イ）」 の講義として行う。 (柘澤)
6月 3日(土) (13:00~17:00)	621 講義室	<講義・演習> (出濱・山下) 【教育法規】 「教育法規とケース・スタディ③（出濱）」 「教育法規とケース・スタディ④（山下）」	「教職研究Ⅰ（教育 法規入門）」の集中講 義として行う。 (倉野・谷口・川東)
6月12日(月) (14:40~16:10)	415 講義室	<講義・演習> (山下) 【道徳教育】 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論（イ） （共）」の講義として 行う。 (櫻井)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務局 TEL：087-832-1683

# プロの教師とは何か？

## ～教師になるあなたへのエール～

- 【趣 旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。  
・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

- 【担 当】客員教授 出濱 大資(香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)  
客員教授 山下 司(香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事)  
客員教授 日下 哲也(公益財団法人 日本教育公務員弘済会香川支部 専任幹事)

### 【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
10月13日(金) (8:50~12:00)	421 講義室	<講義・演習>(日下) 【教育課題の探究①】 「今日子ども状況と道徳教育」	「保育・教職実践演習 (幼・小・中・高)」 の講義として行う。 (山岸)
10月20日(金) (8:50~12:00)	611 講義室	<講義・演習>(出濱) 【教育課題の探究②】 「日本の学力問題」	「保育・教職実践演習 (幼・小・中・高)」の 講義として行う。 (山岸)
11月2日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(山下) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「中学校の事例を中心に」	「生徒指導・進路指導 論」の講義として行 う。 (柘澤)
11月6日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習>(出濱) 【教育の最新情報】① 「教師に求められる力」	「教職研究Ⅱ」の講義 として行う。 (倉野・谷口・川東)
11月9日(木) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(出濱) 【教育方法と実践】 「ICT活用・情報教育のすすめ」	「教育の方法と技術 (B)(口)(共)」の講 義として行う。 (松下)
11月15日(水) (13:00~16:30)	415 講義室	<講義・演習>(山下・日下) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」	「教育実践演習(教育 実習事後指導)」の講義 として行う。 (山岸)
11月16日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(出濱) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「小学校の事例を中心に」	「生徒指導・進路指導 論」の講義として行 う。 (柘澤)

11月24日(金) (8:50~12:00)	611 621 講義室	<講義・演習> (山下・日下) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして ～4月からの心がまえ～」 小学校(日下)・中学校(山下)	「保育・教職実践演習 (幼・小・中・高)」の 講義として行う。 (山岸)
11月27日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習> (山下) 【教育の最新情報】③ 「教育課程と学校評価」	「教職研究Ⅱ」の 講義として行う。 (倉野・谷口・川東)
11月30日(木) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習> (山下) 【教育方法と実践】 「ICT活用・情報教育のすすめ」	「教育の方法と技術 (B)(口)(共)」の講 義として行う。 (松下)
12月13日(水) (10:30~12:00)	331 講義室	<講義・演習> (日下) 【人権教育】 「学校教育における人権教育 小学校での取組事例に学ぶ」	「人権教育」の講義と して行う。 (櫻井)
1月15日(月) (16:20~17:50)	415 講義室	<講義・演習> (日下) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(口)」の 講義として行う。 (柘澤)
1月22日(月) (13:00~14:30)	教授法 演習室	<講義・演習> (山下) 【道徳教育】ケーススタディ 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(口)」の 講義として行う。 (櫻井)
1月29日(月) (16:20~17:50)	415 講義室	<講義・演習> (日下) 【子ども理解】 場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(口)」の 講義として行う。 (柘澤)
1月29日(月) (18:00~19:30)	611 講義室	<講義・演習> (日下) 【教育の最新情報】③ 「学級で育つ子どもたちのために」	「教職研究Ⅱ」の 講義として行う。 (倉野・谷口・川東)
2月5日(月) (16:20~17:50)	415 講義室	<講義・演習> (日下) 【子ども理解】 場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(口)」の 講義として行う。 (柘澤)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL:087-832-1683

香川大学教育学部の専任教員として  
～21年目の取組と今後の展望～

谷口弓恵・倉野晴代・川東芳文

## 1 今年度の取り組みの重点

香川大学教育学部では、「4か年を見通した実地教育プログラム」が構築されている。このプログラムにおいて、交流人事教員の教職支援をまとめたものが、表1【4か年を見通した教職支援】である。このうち、下線を引いた授業の概要を以下に紹介する。

表1 【4か年を見通した教職支援】 交流人事教員が中心となる授業等  

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	学校理解		子ども理解		授業理解		教職理解	
授業	大学入門 ゼミ	教職概論 (イ)(ロ)	教育実践 プレ演習  教育学チ ュートリ アルⅠ  教育学演 習ⅠA  学校教育 課程論A	初等授業 研究  生活科授 業研究  教育学演 習ⅠB  学校教育 課程論B	教育実践 演習  教育学演 習ⅡA  教育学チ ュートリ アルⅡ	教職研究 Ⅱ  教育学演 習ⅡB  -	授業実践 論  教育学演 習ⅢA  教職研究 Ⅰ(教育法 規入門)	教職実践 演習  教育学演 習ⅢB
就職セミナー				就職ガイ ダンス		就職ガイ ダンス  筆記対策	集団面接 個人面接 模擬授業	卒業前 セミナー  公立校イ ンターン シップガ イダンス
その他	教育相談	採用試験 説明会		採用試験 説明会		教職目王 サークル 採用試験 説明会	教職目王 サークル 採用試験 説明会	(教採支援)

## (1) 学校現場に即した授業の充実

## ①「授業実践論」 交流人事教員担当

学生は、基本的な授業づくり（課題の設定、発問、板書の仕方等）を踏まえて授業構想を立て、模擬授業や事後討議を行うことを通して、実践的な授業研究について学んでいる。授業で、模擬面接・集団活動も行い、自他で考えを交流することを通して、教育への見方・考え方を深めることを大切にしている。本授業は、交流人事教員3名が中心となり指導に当たっているが、教員採用試験に向けた「教職セミナー」との連携を図ることで、多くの学部教員が模擬授業、模擬面接・集団活動等の指導に関わることができるようにした。このことにより、教育学部の全教職員で4年生の教職への道を支援する体制を整えることができています。

## ②「教職研究Ⅰ(教育法規入門)」交流人事教員担当

教員を目指すほとんどの4年生が受講しており、基本的な教育法規（教育基本法、学校教育法、地方公務員法、教育公務員特例法等）及び答申・通知等について、事例をもとにしながら解説を加え、理解を深めるとともに、法令遵守精神の高揚を図っている。授業実践論と同じく、客員教授とも連携を図り、授業の質を高めることができています。

## ③「教職実践演習」(4年生後期) 倉野・川東

教職の探究をねらいとし、4年生の学びの総括となる授業で、教育課題の探究をはじめ、理論と教育現場をつなぐ役割を担っている。倉野と川東は、学級経営と生徒指導について担当し、理解をより深めるため、学校園の現状をもとに幼児・児童・生徒への具体的指導・支援の内容と方法等について演習を行った。学生の活発な意見交流のもと、教職への意識向上にもつながっている。

#### ④「教職研究Ⅱ」（後期）川東・倉野

教職をめざす自覚の高まりを支えることをねらいに授業を行っている。令和5年度から、次年度以降の教員採用試験で3年生が受験可能な自治体への対応として、2年生の希望者も受け入れて実施し始めた。「就職セミナー」や「教職自主サークル」（学生の自主勉強会）と連携、協力しながら教育課題をキーにさまざまなテーマで授業を行った。学校現場の各分野で活躍されている方々の講義から教職の基本的実践について学び、教育の最新事情についての理解を深めることができた。先輩の現役教員の講話から教育現場の現状を知ること、4年生から今年の教員採用試験に向けての助言を受けることは、これから教員をめざす学生にとって、教職への意欲を高め、見通しをもって取り組む契機となっている。

#### ⑤「生活科授業研究」（後期）倉野・谷口

2、3年生対象に「生活科授業研究」を幼小接続、生活科の見方・考え方を踏まえて、学生が実践的活動をもとに子どもの学びについて考える・気付く経験を重ねることをねらいに進めている。

#### ⑥「教育実践演習」（3年生前期・後期一部）倉野・川東

3年生が各附属校園での教育実習に臨むにあたり、教育実習の心構え、具体的イメージを意識しているように講話、演習等を行い、また4年生の助言等により不安や課題の緩和がなされる機会を設ける等、授業協力を行っている。事前・事後指導を各校園と連携し、学生の実習支援に努めている。

#### ⑦大学院での授業 谷口

表1の授業以外の教職大学院において、谷口が他の大学院教員と連携しながら授業を担当している。「道徳授業の実践研究」では、道徳科におけるより効果的な表現活動のあり方について講義している。また、「授業研究の実際」、「指導法分析と学習支援」では、授業における質的評価のあり方や、授業分析・授業研究について、演習を交えながら授業を行った。いずれも学校現場の実践事例をもとにして演習や協議を組み入れるなど、院生の学びが深まるよう支援を行っている。

以上のように、担当する各授業において、交流人事教員がこれまで学校現場で培ってきたそれぞれの専門性を生かし、工夫した授業を行っているところである。

### (2) 学生への個別指導（演習ゼミ）

倉野、川東は、教育領域の他教員とも連携し、「教育学演習Ⅰ」において、教育領域2年生対象に教育課題をテーマに演習形式で授業を行っている。「教育学演習Ⅱ」で3年生4名、「教育学演習Ⅲ」で4年生5名を担当し、卒業論文に向けて課題追究への支援を行っている。特に4年次には研究テーマに即して、公立小学校での授業観察、高等学校でのインタビュー調査等、実地調査をもとに理論と実践を絡めながら追究することをめざし取り組んできた。学生は、教育や教職への関心を高め、子どもを見つめる心と目を育み、実践の力量形成の基礎を培ってきている。

また、谷口は「教職実践研究」として、本年度は、院生2名を主担当として指導を担当し、研究テーマに基づいた指導を行っている。院生が週1日継続的に行っている公立校での実習を通して得た実践的学びをさらに深められるよう指導し、教職大学院のテーマである「理論と実践の融合」の実現に努めている。

### (3) 教育委員会・各学校との連携

今年度も従来通り、人的ネットワークを生かして学内外のつながりを図ってきた。県下の学校等における様々な教育活動推進に尽力してきた。一昨年度以来コロナ禍により、香小研高松支部教科研修会に学生参加が実施できていないが、今後の学びの機会として見直し、調整していきたい。

～高大接続～

令和3年度から「総合的な探究の時間」の分野を中心に、高大接続推進を目的とした高校との連携に取り組み、派遣依頼のあった高校へ、各校の実情に合わせて学生や教員を派遣している。今年度は、高松西、高松桜井高校に、学生をグループ研究アドバイザーとして派遣し、高校生に対して指導、助言を行った。また、教員を研究発表会の講師として、坂出、高松西高校に派遣した。この他、自主学習の支援を行うチューターとして、新

学生によるグループ研究指導の様子



たに高松東高校と高松北中学校にも学生を派遣した。高校生の探究的な学びや進路意識の向上に資するとともに、学生にとっても、子どもとのかかわり方を学ぶ好機となっている。今後も高校との連携を継続し、効果的な取組を模索したい。

～幼小接続～

幼小接続に関して、高松市総合教育センター主催の幼保こ小合同研修会に「幼保こ小の接続の推進」に参画した。教職員の学びの共有をもとに、幼小接続期の意義と互恵性ある学びの拡充について、幼児教育施設・小学校全体での意識化をさらに進めていくため、今後も連携していく。また県内の認定こども園2園と、異年齢交流と環境、現職研修について、幼小接続を踏まえて学び合う機会をもち、幼小接続への連携の推進に取り組んでいるところである。

「あきとなかよし」授業の様子

～各学校との連携～

各学校から依頼のあった学習支援や校外活動へのサポート等については、実施に向けて連絡・調整を行った。「生活科授業研究」では、高松市立新番丁小学校の1年生全員を香川大学に招待し、構内を散策しながら「あきとなかよし」の授業を学生主体で行い、互いに学びある機会となった。

学校等との連携については、学生が実際の学校現場の様子、また子どもたちの姿を感覚で受けとめ、学ぶことができる取組となるように努めている。学生は、児童から感動や新たな気付きを得て、今後の授業づくりに生かしたいという思いを事後省察に表していた。



#### (4) 教員採用選考試験合格へ向けてのサポート ～教職自主サークルと個別指導・相談～

授業外では特に、「教職自主サークル」（学生の自主勉強会：毎週月曜日 18:00～19:30）や、「個別指導・相談」（教員の空き時間等活用）等を通して教職を志す学生を支援している。「教職自主サークル」には教員志望の学生の多くが参加し、互いに研鑽する場となっている。交流人事教員3名は毎回オブザーバーとして参加し、指導・助言を行っている。集団討論や模擬授業等に関する各自自治体の採用試験の情報・意見交換を行っており、本学ならではの伝統的取組だと内外の評価も高い。交流人事教員は、これらについて学校現場に即した情報を教えるとともに、教育課題をどう捉え、対応するか等、教員としての心構えや仕事の実際について助言を行っている。さらに、7月末には二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を、11月には、教職2年目の卒業生から、教職の実際について講話を聴く「卒業生と在校生との交流会」を「教職研究Ⅱ」の授業とタイアップして実施し、学生にとって有意義な学びとなっている。

教職自主サークル  
「先輩教員からの  
模擬授業指導」



また、採用試験に向けて個別、グループ指導を望む学生も多くおり、採用試験の願書作成指導、模擬授業、面接・集団活動について個別指導を行っている。これらの指導には、授業以外の多くの時間を要するが、個々の学生とのつながりや理解を深める貴重な機会となっており、交流人事教員が特に力を入れている支援活動である。

#### (5) 大学行事を通しての学生支援

例年10月に行われる「未来からの留学生（教育学部フェスティバル in 香大）」では、「香大生とあそぼう おはなしの国 2023」の講座において、学生と子どもたちがふれ合うことができるよう、学生への支援補助を行った。教育実習等とはまた違った環境の中で幅広い年齢層の子どもたちとふれ合い、クイズや創作劇の発表を通して、子どもたちとのかかわりを学ぶよい機会となった。教育領域2年生が中心となって企画運営に携わり、学生にとって、子どもたちと関わる貴重な学びの機会になったとともに、自信を深める活動ともなった。

未来からの留学生「おはなしの国 2023」



## 2 今後の課題

現体制（学部担当2名、教職大学院1名）での取組が始まり9年目となる。これまでの交流人事教員が築いてきた功績を受け継ぎながら、さらなる効率化、授業の質の向上を目指している。平成29年度から構築されたシステム【表1】を基に、様々な授業科目・内容・体制等について周りの教員と連携して取り組むとともに、新たな教員採用の動向に対応できる体制づくりに向けて試行しているところである。

コロナ禍で実施されるようになった遠隔授業では、対面授業とオンライン配信、オンデマンド配信といったハイブリッド授業の工夫・効果的活用が求められている。遠隔授業ならではの価値を生かすため、新型コロナウイルスの感染防止対策に限らず、今後、対面授業と遠隔授業の効用を見極めて使い分けていく必要がある。そのために交流人事教員もデジタル技術などを積極的に活用していく情報活用リテラシーの向上に努めている。

教員の総合的な資質能力の向上が求められている今、交流人事教員それぞれの教職経験から、教職の魅力、やりがいについて学生に伝えることを通して、教員としての心もちの高まり、教職の技能の向上を支援していくことが重要である。交流人事教員としての重責を自覚し、将来の教育界を支える優秀な人材の育成に、今後ともしっかり取り組んでいく所存である。

## 3 21年目の活動内容

### 学内における活動

#### (1) 委員会等

〔谷口〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、教職大学院専攻委員

〔倉野〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

〔川東〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

#### (2) 授業等

〔谷口〕 【教職大学院】 指導法分析と学習支援、道徳授業の実践研究、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、授業研究の実際、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム

〔学部〕 学校教育課程論A、大学入門ゼミ、教職概論(Ⅰ)・(Ⅱ)・Ⅲ、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、授業実践論、生活科授業研究、就職セミナー、教職自主サークル

〔倉野〕 【学部】 大学入門ゼミ、教職概論(Ⅰ)・(Ⅱ)・Ⅲ、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアル、学校教育課程論A・B、授業実践論、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、教職実践演習、生活科授業研究、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査  
全学共通「越境する学問」(他学部教員と連携)

〔川東〕 【学部】 教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論B、教職概論(Ⅰ)・(Ⅱ)・Ⅲ、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査

#### (3) その他

〔谷口〕 卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

〔倉野〕 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

〔川東〕 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当

### 学外における社会的活動

〔谷口〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師(2024.6、7 講話・演習)  
大学入学共通テスト試験(監督)(2024.1)

〔倉野〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県がん教育推進委員(協議会、研究校参観)  
大学入学共通テスト試験(監督)(2024.1)

高松市 保こ幼・小合同研修会(講話等)(2023.8)

高松市保育研究会実践保育研修(講話等)(2023.10)

坂出綾歌幼児教育研究会〔現職教育〕(講話等)(2023.7、2023.10)

〔川東〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、高大接続推進

## 令和5年度 香川県教育委員会免許法認定講習(高等学校教諭)

## 1 目的

高等学校等に勤務する教員に対し、教育職員免許状取得に必要な単位を修得させ、あわせて資質の向上を図る。

## 2 開設科目、受講人員、期日

科目区分	開設科目	受講者数	期日
教科に関する 科目：工業	ヒューマンインタフェース	27名	8月28日(月)・8月29日(火)

## 3 日程

時間	8:30	8:50	9:00	10:30	10:50	12:20	13:00	14:30	14:50	16:20
第1日	受付(入室)	オリエンテーション	講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧	退室
第2日		受付(入室)	講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯	退室

## 4 講師(香川大学)

	期日	科目	講師
講義	8/28・29	ヒューマンインタフェース	教授 山田 貴志

## 令和5年度 香川県教育委員会免許法認定通信教育(特別支援学校教諭)

## 1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定通信教育を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所定単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

## 2 開設科目、受講人員、期日

	開設科目	受講者数	期日
講義Ⅰ	聴覚障害児の教育課程及び指導法	78名	7月31日(月)・8月1日(火)
講義Ⅱ	特別支援教育の基礎理論	73名	8月21日(月)・22日(火)
講義Ⅲ	視覚障害児の心理・生理及び病理	68名	9月2日(土)・3日(日)
講義Ⅳ	病弱児の教育総論	70名	9月9日(土)・10日(日)

## 3 日程 (全講義同一日程)

時間	8:30	8:50	9:10	10:40	10:55	12:25	13:35	15:05	15:20	16:50
第1日	受付(入室)	オリエンテーション	講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧	退室
第2日		受付(入室)	講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯	退室

## 4 講師 (香川大学)

	期日	科目	講師
講義Ⅱ	8/21・22	特別支援教育の基礎理論	教授 小方 朋子
講義Ⅲ	9/2・3	視覚障害児の心理・生理及び病理	教授 惠羅 修吉
講義Ⅳ	9/9・10	病弱児の教育総論	教授 西田 智子

香川大学免許法認定公開講座（中学校教諭二種免許状(英語)）令和5年度

- ・ 文部科学省委託事業(令和5年度小学校外国語教科化に対応した外部人材活用促進等のための講習の実施事業)として7講座をオンラインと対面で開設した。

(1) 実施状況（講座別受講者数）

全体

講座名	形態	実施日	受講者所属都道府県																				計
			香川県	北海道	山形県	福島県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	岐阜県	静岡県	三重県	大阪府	兵庫県	広島県	愛媛県	福岡県	熊本県	鹿児島県	
学校教育相談学	オンライン	8/9,8/10	2					1	1		1				2		1			1	1		10
英語史概論	対面	8/21,8/22	7												1		1						9
英語音声学概論	対面	8/5,8/6	6				1	1									2		1				11
英語圏児童文学	対面	9/9,9/10	3																				3
	オンライン	9/9,9/10	5		1	1	1	3	1	2	1	2	1	1	1	2	2	1		3	1	1	30
英作文基礎	対面	9/23,9/24	1																				1
	オンライン	9/23,9/24	7		1	1		3	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1		3	1		28
日英のことばと文化	対面	8/7,8/8	4				1	1								1	2						9
異文化コミュニケーション論概説	対面	11/4,11/5	3																				3
	オンライン	11/4,11/5	5	1	1	1		3	1	1	1	1	2	1	1	3	2	1		1	1	1	28
計			43	1	3	3	3	12	5	4	4	4	4	3	6	7	12	3	1	8	4	2	132

※単位数は各講座1単位

(2) 取得単位数別受講者数

取得単位数	受講者所属都道府県																				計		
	香川県	北海道	山形県	福島県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	岐阜県	静岡県	三重県	大阪府	兵庫県	広島県	愛媛県	福岡県	熊本県	鹿児島県			
6単位	2					1									1								4
5単位	1												1		1								3
4単位	3																		1	1			5
3単位	1		1	1	1	2	1	1	1		1	1		1		1							13
2単位	4						1			2				1					2		1		11
1単位	3	1						1	1		1		1	2	1		1						12
計	14	1	1	1	1	3	2	2	2	2	2	1	2	4	3	1	1	3	1	1	1	48	

## 令和 5 年度 管理職候補者研修会 主幹教諭・指導教諭・教諭用

◎印（第 1 回、第 8 回研修）は全員参加

2 年目以上の者は、第 2 回～第 7 回研修から 2 回以上選択（第 1 回研修会で参加希望をとる）

回	期日	指標	研修内容		会場	講師
			講義等	法規演習		
1	5 月 23 日 (火)	管 Aa1 管 Ac1 管 Bb1	◎義務教育課長講話 ◎オリエンテーション ◎香川の教育課題 (保健体育、特別支援教育、人権・同和教育、学習指導、生徒指導等)	◎教育法規の概要	県教育センター (大研)	義務教育課長 事務局職員
2	6 月 16 日 (金)	管 Ba1 管 Bb1 管 Cb1 管 Ac1	管理職の職務(中学校長) 教頭の役割と実務(教頭) (以上オンライン中継) 市町教委教育長講話 学校と市町教育委員会 市町教委と教育事務所	服務	県教育センター (1 中・2 中・5)	市町教委教育長 市町教委 事務局職員 事務局職員 現職校長・教頭
3	7 月 25 日 (火)	管 Ba1 管 Bb1 管 Cb1 管 Ca1	管理職の職務(小学校長) 教頭の役割と実務(教頭) (以上オンライン中継) 公務災害	児童生徒の就学教育課程 学校保健・安全	県教育センター (1 中・2 中・5)	現職校長・教頭 事務局職員
4	8 月 2 日 (水)	管 Ca1 管 Cc1 管 Ab1	【オンライン研修】 学校の危機管理について ・学校安全 ・生徒指導	講義に法規内容 含む	各学校または、 県教育センター (ICT)	香川大学
5	8 月 3 日 (木)	管 Ca1 管 Cc1 管 Ab1	【オンライン研修】 学校危機管理について ・教員のメンタルヘルス ・保護者・地域住民との協働	講義に法規内容 含む	各学校または、 県教育センター (ICT)	香川大学
6	9 月 7 日 (木)	管 Ab1 ア 管 Bc1 管 Cc1	特別支援教育力の向上 目標申告・評価制度 人事評価制度	講義に法規内容 含む	県教育センター (1 中・2 中・5)	特別支援教育課 現職校長 事務局職員
7	10 月 13 日 (金)	管 Bc1 管 Cb1 管 Cc1 イ	カリキュラム・マネジメント 学校組織マネジメント 企業の組織マネジメント	分限・懲戒 児童生徒の懲戒 ハラスメント	県教育センター (1 中・2 中・5)	外部講師 事務局職員
8	1 月 16 日 (火)	管 Aa1 管 Ca1 管 Bc1	◎教育長講話 ◎学校事故への対応 ◎学校事務 ◎研修受講奨励 ◎1 年間のまとめ	講義に法規内容 含む	県教育センター (大研)	教育長 事務局職員

※第 1 回～第 8 回：全日研修 9:00～16:25 受付 8:45～9:00

※県教育センター：高松市郷東町 587-1（第 4 回、第 5 回は、オンライン研修のため、各学校での受講可）

※持参物：教育小六法、香川県教育関係職員事務必携、各市町教育委員会の管理運営規則及び含む規則

「信頼される教師を目指して」、「わいせつセクハラ事例集」「個人情報適切な取り扱いと流出の未然防止に向けて」

※第 4 回、第 5 回は、教職大学院連携研修 405、406「学校の危機管理研究 I-①、②」として実施。

この 2 回の講義内容の個別事例研究を、香川大学教職大学院教員研修連携科目「学校の危機管理研究 II」として、9 月 9 日（土）、9 月 16 日（土）に開講する。参加は自由。

※今後、事情により内容等が変更になる場合があります。

教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの実施について  
～教員研修連携科目と教職大学院連携研修の構築～

学校力開発コース

### 1. プログラム実施の背景・趣旨・目的

学校を取り巻く環境の変化に伴う多様化・複雑化した問題や課題が生起しており、諸課題を主体的に受け止めて解決を図るため、香川県教員等人材育成方針及び指標に基づいた高度な実務能力を備えたスクールリーダーの育成が求められている。他方、教員の志願者のみならず管理職候補者登録選考試験の受験者数が減少傾向にあり、次代の学校教育を推進する人材の育成が喫緊の課題となっている。

そこで教職大学院ではスクールリーダーの育成に重点的に取り組むことを重点課題とし、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携協力を強化することにより、教員研修の中核パートナーとして、教員の養成と研修の一体的な取り組みの推進に寄与したいと考えている。

### 2. 現状

香川大学教職大学院は、平成 31 年度から 2 年間独立行政法人教職員支援機構の事業委託を受け、「教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの開発～ラーニングポイント制の構築に向けて～」について検討を行い、連携・協働事業として次の 3 点が実現している。

- ① 香川県教育センターの教員研修体系に「教職大学院連携研修」<sup>※1</sup>が位置付けられている。  
※1 「教職大学院連携研修」は、教職大学院科目の一部を教員研修として提供
  - ・教職大学院連携研修講座 「資質・能力を育む教科の授業づくり」
  - 「道徳科の授業づくり」
  - 「教育効果を高めるための ICT 活用法」 R5 より名称変更
  - 「授業における特別支援教育」
  - 「学校の危機管理研究Ⅰ—①」 「学校の危機管理研究Ⅰ—②」
- ② 教職大学院学校力開発コース科目として、スクールリーダーの養成を目指すことを目的として教員研修との連携を図った「教員研修連携科目」<sup>※2</sup>を開設している。  
※2 「学校の危機管理研究Ⅰ」集中：2 日間（管理職候補者研修に含む）  
「学校の危機管理研究Ⅱ」集中：2 日間（土曜日開催・希望履修）  
なお、「学校の危機管理研究Ⅱ」を希望履修した管理職候補者が 3 年以内に教頭として徴用された場合は、「新任教頭研修」の当該内容に係る研修を免除することができる。
- ③ 研修形態としては、オンラインで受講する同期型遠隔研修<sup>※3</sup>を実施した。  
※3 「資質・能力を育む教科の授業づくり」「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」、年度当初から実施を予定。

### 3. 課題と本年度の取組

#### (1) 課題

- ① スクールリーダー、とりわけ学校管理職を志望する教員の減少に伴い組織的・計画的に人材開発を行う必要がある。
- ② 教員の働き方改革が進められている中「学び続ける教員像」の具現化を図るため、教員が「学びたい時に学べる」研修環境を整備する観点から教員研修における「研修受講履歴記録」の在り方、「ラーニングポイント制」の導入及び教員研修体系の多様化を検討する必要がある。
- ③ 香川県教員等人材育成方針及び育成指標の改正が予定されており、その趣旨を踏まえて「教職大学院連携研修」及び「教員研修連携科目」について内容の再検討が必要である。
- ④ 上記①から③について具体的な方策や作業工程などを検討し、教員研修に係る教職大学院と香川県教育委員会・香川県教育センターとの一層の連携協力を図るため設置した「香川大学教職大学院教員研修高度化推進室」の活動を充実させる必要がある。

#### (2) 本年度の取組

検討にあたっては、本連携協議会の専門委員会の下、平成 31 年度に設置された「教員研修システム共同開発ワーキング」において、香川大学教職大学院、香川県教育委員会・香川県教育センター及び中核市として管内教員の研修主体となっている高松市教育委員会・高松市総合教育センターの各担当により協議を行っている。

資料 1. 教員研修システム共同開発ワーキングの開催状況

回	開催日	検討内容
第 1 回	令和 5 年 6 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修に係る連携・協働の実績について</li> <li>○教員研修に係る令和 5 年度の取組について</li> <li>○今年度の検討課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職大学院と連携した教員研修の在り方 (教員研修連携科目、教職大学院連携研修)</li> <li>・香川県教職員人材育成指標に基づく改正指標を踏まえた取組</li> <li>・教員研修の高度化に資するモデル開発事業</li> </ul> </li> </ul>
第 2 回	令和 5 年 7 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修に係る教育委員会の取組について</li> <li>○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター)</li> <li>○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」について (教職大学院)</li> <li>○教員研修の高度化に資するモデル開発事業について</li> </ul>
第 3 回	令和 5 年 9 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修システム共同ワーキングの組織的位置づけについて</li> <li>○教員研修に係る教育委員会の取組について</li> <li>○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター)</li> <li>○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」の受講状況等について (教職大学院)</li> <li>○教員研修の高度化に資するモデル開発事業について</li> </ul>
第 4 回	令和 5 年 11 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修に係る教育委員会の取組</li> <li>○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター)</li> <li>○令和 6 年度・教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」について (教職大学院)</li> <li>○教員研修の高度化に資するモデル開発事業について 「香川型研修奨励システムの構築」教師と管理職の 1on1 プラットフォームの最適化</li> </ul>
第 5 回	令和 6 年 1 月 22 日 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和 6 年度教員研修に係る連携・協働について</li> <li>○教員等人材育成指標との関連表に基づく研修内容の検討について</li> <li>○教員研修の高度化に資するモデル開発事業について 「香川型研修奨励システムの構築」教師と管理職の 1on1 プラットフォームの最適化</li> </ul>
	令和 6 年 2 月 3 日 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○シンポジウム 対話から始まる教師のキャリアプランニング —香川型研修奨励システムの構築—</li> </ul>

資料 2. 令和 6 年度教職大学院連携研修及び教員研修連携科目実施予定

教職大学院連携研修講座名	指標	実施日	研修形態	定員
401 資質・能力を育む教科の授業づくり	Bb	8 月 2 日 (金)	双方向配信型	70 人
402 道徳科の授業づくり	Bb イ	7 月 31 日 (水)	集合型	50 人
403 教育効果を高めるための ICT 活用法	Bb イ	8 月 2 日 (金)	集合型	30 人+30 人
404 授業における特別支援教育	Ba ア	7 月 24 日 (水)	集合型	50 人
405 学校の危機管理研究Ⅰ—①	Cc	7 月 31 日 (水)	双方向配信型	120 人
406 学校の危機管理研究Ⅰ—②	Cc	8 月 1 日 (木)	双方向配信型	120 人

教員研修連携科目		実施日	研修形態	定員
(希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ—①	Cc	9 月 7 日 (土)	双方向配信型	100 人
(希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ—②	Cc	9 月 14 日 (土)	双方向配信型	100 人

## 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業

### 1 趣旨について

学力の向上に向け、児童生徒同士による学び合い、多様な体験活動の重要性が高まる中で、協働的な学びを実現し、児童生徒が主体となって興味・関心に応じた課題や深める価値のある課題を設定し、多様性や協働性を発揮しながら課題解決に取り組み、自己の学習成果を実感できるような授業づくりが求められる。

本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の学力の向上に資する。

### 2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を3校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (3) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会や、せとうち先生スキルアップチャンネルへのコンテンツ提供などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (5) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (7) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
綾川町立滝宮小学校	令和5年6月20日（火） 14:05～16:30	准教授 清水顕人	算数科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
綾川町立滝宮小学校	令和5年9月20日（水） 14:05～16:30	准教授 清水顕人	体育科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
綾川町立滝宮小学校	令和5年11月7日（火） 14:05～16:30	准教授 清水顕人	道徳科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言

### ※ モデル校の研究内容

#### ■ 綾川町立滝宮小学校

- 研究主題 つながり分かち合う喜びを通して 児童の自立を促す授業づくり（4年次）  
－「きく力」の育成－

## 教科等の指導における ICT 利活用モデル校

## 1 趣旨について

教科指導等において、ICTを効果的に活用することで、児童生徒にとって授業が分かりやすく深まるものになることが期待されている。また、令和6年度から学習者用デジタル教科書が本格的に導入されるのを見据え、デジタル教科書と紙の教科書の効果的な併用の在り方等についての研究が求められている。

本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の学力向上に資する。

## 2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を5校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) モデル校は、香川県教育センターが実施する調査研究事業に協力する。
- (3) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (4) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会や、せとうち先生スキルアップチャンネルへのコンテンツの提供などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (6) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (7) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (8) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

## 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
直島町立直島中学校	令和5年7月3日(月) 14:00~16:30	准教授 松下 幸司	外国語科の研究授業後の討議会において、指導・助言
	令和5年10月20日(金) 14:00~16:30		
善通寺市立東中学校	令和5年10月18日(火) 10:35~12:15	教授 宮崎 英一	日常の授業における遠隔会議システムの利活用について、指導・助言
多度津町立多度津小学校	令和5年7月12日(水) 15:00~16:30	教授 坂井 聡	授業におけるユニバーサルデザインとICTの効果的な活用についての講話
	令和5年11月1日(水) 13:45~16:30		

## ※ モデル校の研究内容

- 直島町立直島中学校  
研究主題 コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成
- 善通寺市立東中学校  
研究主題 登校できない生徒（長期入院生徒や不登校生徒）に対する、オンライン会議システムとクラウド型の授業支援アプリを活用した、学力保障の在り方
- 多度津町立多度津小学校  
研究主題 「主体的・対話的で深い学び」を支えるICTを活用した授業づくり

## 幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園・認定こども園に派遣することによって、「香川県就学前教育振興指針」（令和2年2月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む。）及び幼保連携型認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園等における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

### 1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者

No.	氏名	役職・分野
1	片岡 元子	香川大学教育学部教授・幼児教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部教授・幼児教育
3	松井 剛太	香川大学教育学部准教授・幼児教育
4	吉川 暢子	香川大学教育学部准教授・幼児教育
5	金子 之史	香川大学名誉教授・理科教育

- (2) 県教育委員会指導主事

### 2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園等の申請に基づき、幼稚園等を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

### 3 派遣実績（令和5年度：5市町9園）

	園名	訪問日	研修内容	支援員
1	観音寺市立 観音寺こども園	令和5年6月16日(金)	幼児期の学びと、小学校教育への滑らかな接続～幼児教育香川県研究協議会提案発表に向けた取組みから～	吉川暢子先生
2	観音寺市立 観音寺中央幼稚園	令和5年7月6日(木)	“あたりまえ”を見直した柔軟な環境構成の在り方～ドキュメンテーションを使った話し合い～	金子之史先生
3	坂出市立 坂出中央幼稚園	令和5年7月14日(金)	幼児理解を深め、実践力の向上へとつなげるための持続可能な方法～チームで取り組む環境構成の工夫～	金子之史先生
4	高松市立川岡幼稚園	令和5年9月5日(火)	育ち合う異年齢のかかわりと、小規模園における集団保育の在り方～保育者の資質向上に向けた研修の工夫～	吉川暢子先生
5	観音寺市立 大野原こども園	令和5年9月11日(月)	職員間で共通理解を図るための工夫と、複数担任制を生かした保育の展開～保育の振り返りと事例研修から～	松本博雄先生
6	宇多津町立宇多津幼稚園	令和5年10月20日(金)	環境の再構成と援助の在り方についての共通理解～幼稚園における「主体的で対話的な学び」の観点から～	吉川暢子先生

7	多度津町立多度津幼稚園	令和5年10月23日(月)	子どもが主体的に思い思いの遊びを展開していくための援助や環境の再構成～子どもの育ちを共有して～	片岡元子先生
8	坂出市立林田幼稚園	令和5年10月31日(火)	明日の保育が楽しくなる『遊びの見える化』の取組み～遊びマップや写真を用いた対話を通して～	金子之史先生
9	高松市立木太幼稚園	令和5年11月8日(水)	幼小連携・接続における、子どもの育ちの共有に向けて～3歳児の遊ぶ姿から見取った子どもの「学び」から～	金子之史先生

## 香川県学力等調査結果分析検討会議

「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析並びに県下各小中学校が分析結果を有効活用できるよう支援することを目的とする。

分析検討会議は、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析
- 「香川県学習状況調査」の問題（国語科・算数科・数学科）及び質問項目の内容検討

## 1 委 員

No.	氏名	役職	分野/領域
1	佐藤 明宏	香川大学教育学部特命教授	
2	松島 充	香川大学教育学部教授	教科教育分野 数学領域
3	岡田 涼	香川大学教育学部准教授	教育課題研究分野 心理領域
4	横山 佳充	香川大学経済学部教授	経済・政策領域 経済・政策分析コース

## 2 分析検討会議

日 時	主な内容
令和5年 8月21日（月）	○ 令和5年度全国学力・学習状況調査の報告書についての分析検討
令和6年 1月12日（金）	○ 令和5年度香川県学習状況調査の報告書についての分析検討

## 第 22 回 「未来からの留学生」をふりかえり

実行委員長 神野 幸隆

第 22 回「未来からの留学生」を令和 5 年 10 月 8 日（日）に実施致しました。事前予約制、午後のみの実施として接触時間を短くする等のコロナウィルス感染拡大対策を講じながら実施しました。県内の小学生 950 名の応募者の中から、当選した 350 名のみなさまにメールをお送りさせていただき、当日は約 700 名の保護者、地域のみなさまにご参加いただきました。

この未来からの留学生は、2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止され、昨年度の第 21 回が 3 年ぶりの復活開催となり、今年度の第 22 回に引き継がれました。

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、教育学部 2 年生の学生が主体となり活動の企画・運営を通じて、子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっております。学生が所属する各領域から合計で 20 本の講座が展開されました。さらに自由参加の 4 講座（天候の都合で、太陽観察の講座は中止）を含め、合計で 24 講座が実施されました。

各領域の学生からの報告書には、企画・実践・振り返りを通じた学びの成果や、子どもとの関わり方への気づきについての学生の記述が多数見られました。これらの記述から、本事業における学生の成長を実感しております。

最後になりましたが、本事業は香川県教育委員会様のご後援を受けて実施され、教育学部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施に関しまして、多方面からご尽力頂きましたことに深く感謝いたします。



## 令和5年度特別支援教育コーディネーター協議会

## 1 目的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

## 2 対象及び受講者数

実施日	開催地域	対 象	受講者数
9月14日(木)	仲 善	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	38名
9月21日(木)	中 讚	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	64名
10月 3日(火)	西 讚	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	61名
10月19日(木)	東 讚	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	36名
11月 9日(木)	小 豆	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	20名

合計 219名

## 3 研修テーマ及び講師（香川大学教育学部）

実施日	研 修 テ ー マ	講 師
9月14日(木)	「知能検査等のアセスメントを踏まえた児童生徒への支援について」	教授 惠羅 修吉
9月21日(木)	「算数・数学に学びにくさのある子どもへの支援と配慮」	教授 松島 充
10月 3日(火)	「学校支援体制と外部機関との連携」	教授 宮前 義和
10月19日(木)	「発達性読み書き障害の理解と指導・支援」	准教授 中島 栄美子
11月 9日(木)	「発達障害による困難さと効果的な医療的アプローチについて」	教授 西田 智子

令和5年度 坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援について  
月日の欄の※印は別添資料あり

## 1. 大学教員による指導等

## (1) 出前講座

回	月・日	学年	担当講師	講義のタイトル
1	5月26日	3年生	野崎武司 先生	主体的・対話的に学ぶということ
2	9月15日	1年生	清水顕人 先生	道德教育について
3	9月22日	3年生	山神眞一 先生	コミュニケーション力を高めるために
4	9月29日	2年生	片岡元子 先生	幼児期の教育—遊んで大きく育つ
5	10月20日	1年生	宮前淳子 先生	身近にある心理学
6	10月27日	2年生	小方朋子 先生	特別支援教育について
7	11月10日	1年生	小方直幸 先生	16歳からの社会学
8	11月17日※	3年生	坂井 聡 先生	障害があるとはどういうことなのか？
9	2月16日	2年生	高木由美子先生	教職を知る—中学校生活
	4月14日	1年生	岡田 涼 先生	探究を楽しもう

4月14日の岡田先生の講義は、教育創造コース単独ではなく1年生合同で実施した。

## (2) グループ研究指導

回	月・日	学年	担当講師	内容
1	5月12日※	3年生	小方朋子 先生、川東芳文 先生 栗田隼人 先生	研究発表会
2	1月26日	2年生	川東芳文 先生	中間発表会
3	3月1日	1年生	未定	研究発表会

この他、春季休業中等に、2年生は各研究室の先生方から指導を受けている。

## (3) 香川大学訪問(2月7日終日)

月・日	学年	担当講師	内容
2月7日	1年生	小方朋子 先生	施設見学、大学説明、講義の聴講

## 2. 附属坂出学園における活動

学年	訪問先	回	月・日	内容
1年生	附属坂出小学校	1	5月26日	授業見学、給食、遊び、清掃指導等
		2	6月9日※	技能支援、給食支援
		3	9月22日※	昼休み体験活動(工作等)
		4	11月17日	フェスタ支援、給食、遊び、清掃指導等
		5	2月16日	授業参観、給食、遊び、清掃指導等
2年生	附属坂出中学校	1	6月23日	総合学習CANの支援活動
		2	7月11日※	総合学習CANの支援活動
		3	9月27日※	授業見学
		4	9月22日	総合学習CAN発表会の支援活動

	附属坂出幼稚園	1	5月30日	支援活動①
		2	6月6日	支援活動②
		3	10月31日※	支援活動③
	附属特別支援学校	1	11月9日※	訪問・学校説明・授業見学
3年生	附属坂出小学校	1	9月28日※	教育実習生の研究授業の見学

# 教育課題に関するグループ研究発表会を行いました（3年）

5月12日（金）教育創造コースの3年生が、コースの活動の集大成となる「教育課題に関するグループ研究発表会」を行いました。生徒達は昨年7月から3～4名のグループを結成し、各班が教育に関するテーマを設定して、探究活動を行ってきました。探究の過程では、**香川大学の先生方をはじめ多くの方々にアドバイスやご指導・ご協力をいただきました。**

班	研究テーマ一覧（3年生）
1	虐待に対して、保育園でできる対策は何か？ ～保育士からの子どもへの虐待をなくすために～
2	外国にルーツをもつ児童への学習支援 ～誰も取り残さないために周りの人ができること～
3	生徒たちが授業に集中できる教室はどのようなものか？ ～よい教室を作るために～
4	不登校生徒が将来社会の一員として活躍するには？
5	数学の授業の沈黙をなくすためには ～数学を数楽（すうがく）に～
6	ヤングケアラーに対する意識改革をするには？ ～現在の体制の考察と見直し～
7	生徒が積極的・能動的に学ぶ授業 ～アクティブ・ラーニングを活用して～
8	好奇心を高める授業とはどういうものだろうか？ ～宇宙一行きたくなる笑楽校（しょうがっこう）～
9	幼児の運動能力向上の秘訣 ～アスリートへの道～
10	子ども食堂の在り方を多様化させることはできるのか？



各班6分の発表をし、香川大学教育学部の小方朋子先生と川東先生から質問と助言をいただき、県教育委員会の栗田先生からは、講評をいただきました。



今回は「対話」と「質疑応答力」をキーワードに発表会を行いました。

発表者は「対話的」な発表を心がけ、聴き手であるコース1・2年生も、適宜、質問や感想を述べることができました。



ご指導いただいた香川大学教育学部の先生方、アンケートやインタビュー等にご協力いただいた方々、**本当にありがとうございました。**

これらから新たに、2年生のグループ研究が始まります。「**主体的、協働的、対話的で、深い学び**」となるよう意識して活動していきます。今後ともよろしく願いいたします。

## 香川大学教育学部附属坂出小学校で 授業参観・支援活動②(1年)を実施しました

6月9日、香川大学教育学部附属坂出小学校において、教育創造コースの1年生が、「授業参観・支援活動②」を行いました。2年の英語、4年の理科と音楽、5年の家庭、6年の体育と図工の授業を参観させていただき、支援活動も行いました。



今回は、授業参観に加え、支援活動もさせていただきました。前回よりも深く児童の皆さんと接する機会をいただきました。班ごとに異なる授業で支援をしましたが、「臨機応変に対応する」、「児童が授業に集中できるように促す」、「児童が困っていたら支援する。児童がすべきことを取り上げてはダメ」を合言葉に取り組みました。今日は本当にありがとうございました。

## 香川大学教育学部附属坂出中学校で 支援活動② を実施しました

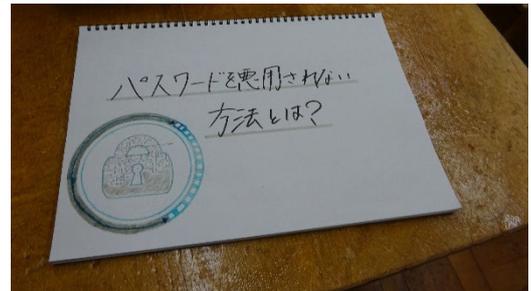
7月11日、教育創造コースの2年生が、香川大学教育学部附属坂出中学校において、総合学習CAN(Cluster, Action Learning, Narrative Approach)のなかで「支援活動」を行いました。  
中学生の各「クラスター」の活動内容は6月の訪問時よりもかなり深化しており、実験やインタビューをするために教室外で活動しているクラスターも多くありました。教育創造コース生は各クラスターの探究の内容を聞き取り、疑問に思ったことを質問したり、アドバイスをしたりしました。

### 【問いかけの例】

「この探究はどうなったらいいの？」…理想のゴールを明確にする。

「(困っていたら;素朴な疑問から)なぜ、これをしたいの？」…研究の繋がりを意識させる。

「どうなっていたら〇〇だと言えるの？」…定義をはっきりさせる。



多種多様で、大変複雑な探究活動が為されているため、コース生にとっては、良いアドバイスをするのは、なかなか難しかったようです。しかし、大変面白く貴重な経験でした。附属坂出中学校の皆さん、本当にありがとうございました！

## 香川大学教育学部附属坂出小学校 支援活動③

## 「ロング昼休み」におじゃましました

9月22日、教育創造コースの1年生が、本校に隣接する香川大学教育学部附属坂出小学校の「ロング昼休み」の時間のなかで、いろいろな工作をして一緒に遊びました。

## 遊び名 カプセルトイでフィギアを作ろう！

・メッセージ：自分だけのお気に入りのフィギアを作ろう（場所：家庭科室）

## 遊び名 氷なしスノードームづくり

・メッセージ：世界に一つだけのスノードームを作ろう！（場所：多目的室）

## 遊び名 ヨーヨーづくり

・メッセージ：自分だけのヨーヨーを作ろう！（場所：理科室）

## 遊び名 空気鉄砲づくり

・メッセージ：空気鉄砲でドラえもんの世界へ行ってみよう！（場所：体育館）

## 遊び名 読み聞かせ と しおりづくり

・メッセージ：いっしょにしおりを作ろう！（場所：図書室）

## 遊び名 風で回る！！∞ぐるぐるおもちゃ

・メッセージ：風が吹くとずっとぐるぐる回る？ 紙皿で楽しいおもちゃを作ろう！（場所：図工室）

## 遊び名 小物入れを作ろう！（場所：メディアルーム）

・メッセージ：牛乳パックを素敵な小物入れにアレンジしよう！

## 遊び名 ジャンボミッキーと一緒に踊ろう！！

・メッセージ：ミッキーになりきろう★（場所：音楽室）



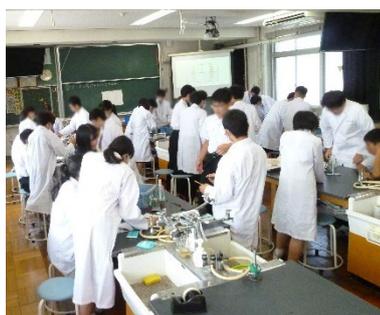
制限時間の中で、配布・指示・片付けの全てを完了することはとても難しく、興奮と緊張の、アツと言う間の40分間でした。

香川大学教育学部附属坂出小学校の皆様、このような機会を与えて下さり大変ありがとうございました！

## 香川大学教育学部附属坂出中学校で 授業見学 を実施しました

9月27日、教育創造コースの2年生が、香川大学教育学部附属坂出中学校を訪問し、中学校の先生方の授業と教育実習生の**公開授業を見学**しました。

コース生はグループに分かれ、技術・家庭、国語、数学、社会、数学、理科、保健体育の授業を見学しました。中学校の先生方が、丁寧に分かりやすく説明をされている様子や、教育実習生の工夫を凝らした授業、中学校の生徒の皆さんが真剣に授業に取り組む様子に、大変感銘を受けました。



今日は見学をする立場でしたが、授業は真剣勝負という雰囲気を感じ、大変緊張しました。

貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

## 香川大学教育学部附属坂出小学校 にて

### 「教育実習生の研究授業」を見学しました

9月28日、教育創造コースの3年生が香川大学教育学部附属坂出小学校を訪問し、香川大学教育学部の3回生が行う研究授業を見学しました。



今回見学をした研究授業の中には、教育創造コースの卒業生によるものも含まれており、3年生は**将来の自分の姿を投影しながら**見学をしました。学校全体が活気と緊張感に満ちており、教育実習生と生徒、そして指導者の先生方の相互のやり取りが発する気迫に圧倒されました。

とても勉強になりました。本当にありがとうございます。

# 香川大学教育学部附属坂出幼稚園で 支援活動③（2年）を実施しました

10月31日、香川大学教育学部附属坂出幼稚園において、教育創造コースの2年生が副園長先生によるガイダンスの後、園庭や保育室で園児と一緒に活動しました。

## 副園長先生からのガイダンスの概要

- ① けがへの対応
  - ・慌てず、落ち着いて。「大丈夫よ」 ・周りの保育者に伝える。
- ② 言葉遣い
  - ・温かい声かけ ・子どもの言葉に対して「嬉しいな」「辛いな」
- ③ 子どもの世界を楽しむ
  - ・大人の正しい「正解」を求めない。



園児の皆さんとコース生の「本気」の心の交流が強く感じられました。幼い園児さんから、こんなにも多くのことを教えてもらえることに胸が熱くなる思いでした。また、「遊び」を通じての、「想像力」、「意思決定」、「主体性」、「考える力」などについても学びました。先生方、園児の皆さん、本当にありがとうございました。

# 香川大学教育学部附属特別支援学校を 訪問しました

11月9日、教育創造コースの2年生が坂出市内にある香川大学教育学部附属特別支援学校で訪問学習をしました。小学部・中学部・高等部の部主事の先生のご案内で、授業参観をしました。その後、副校長先生や部主事の先生方から、学校の概要についてご説明いただきました。



10月末の小方朋子教授の講義「特別支援教育について」で示された課題を意識し、校訓である「自立」の実現に向けて、どのような支援の工夫がなされているのかを見学の中で学びました。

特別支援学校の先生方、貴重な経験をさせていただき、本当に有難うございました。

# 香川大学教育学部からの出前講座⑧（3年）

を実施しました

11月17日、香川大学教育学部から坂井聡先生をお招きし、「障害があるとはどういうことなのか」というテーマで、教育創造コースの3年生にご講義をいただきました。



坂井先生からは、様々な問いかけがありました。

香川大学バリアフリー支援室には、年間どれくらいの相談があると思いますか？

自立って何でしょう？  
皆さんは自分が自立している  
と思いますか？

多様性があるから社会  
発展してきたんですよ。

なぜ、「強く、明るく、元気よく」挨拶をしなければいけないのでしょうか？

人の個人内成長よりも、順番が上がる  
ことが評価されていませんか？

宿題をやってこない子どもがいて、その子がヤングケアラーだったらどうしますか？

**全ての人が、尊厳ある人として認められ、サポートを受けつつ、自分らしく生きることができることが大事！**



コース生たちは、教職において、今後の人生において、度々、坂井先生からのメッセージを思い出すことでしょう。  
本日は、ためになり、また、心温まるご講義をしてくださり、本当にありがとうございました。



## 覺書・要項

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

### (目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

### (実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

### (研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

### (連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協力を当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

### (連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

### (経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

### (補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長  
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長  
惣 脇 宏

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

### 1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### 2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

### 3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

### 4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

### 5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

### 6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

### 7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

#### 附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長

副学部長

教育研究評議員

実地教育委員会委員長

学生支援専門委員会委員長

学務委員会委員長

入試専門委員会委員長

附属学校代表

附属教職支援開発センター長

幸町地区統合事務センター長

幸町地区統合事務センター事務課長（幸町北キャンパス担当）

香川県教育委員会

教育長

副教育長

教育次長

総務課長

義務教育課長

高校教育課長

特別支援教育課長

香川県教育センター所長